

# 第1学年 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 平成21年10月15日（木）  
生 徒 西和賀町立沢内中学校  
1年A組（男子16名女子14名 計30名）  
指導者 教諭 村 上 淳

## 1 単元名 第3章 日本のすがたとさまざまな地域（※前半部分）

## 2 単元について

### （1）教材観

本単元の主な学習内容は「日本の位置・領域」についてである。日本の国土の位置および領域の特色と変化を、領域をめぐる諸外国との問題にも着目することが目標になっている。学習指導要領との関連事項は、（1）－イ－（ア）の「我が国の国土の位置及び領域の特色と変化を広い視野から考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観させる。」である。また、学習指導要領の解説－社会編－には、内容の取り扱いの留意事項として「地球儀や地図を活用して我が国の位置と領域の特色を多面的・多角的にとらえるようにすること」「北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること」を挙げている。以上の点をもとに本教材の価値を鑑みると、「日本は小さい国」と思いこんでいる生徒が多いことから、東西南北の端や領海、経済水域等、領域を学ぶことにより多面的・多角的に日本について学習できると考える。

### （2）生徒観

#### ア 社会的事象への関心・意欲・態度

男女とも授業への取り組み姿勢は良く、社会科への興味・関心も高い。しかし、授業における様々な事象に対する反応はあまりよくなく、自ら積極的に活動しようとする態度が不足している。

#### イ 社会的な思考・判断

社会的事象から疑問を持つ生徒は多いが、その事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、判断できる生徒は少ない。また、思考し判断した事柄を適切に文章で表現する力が弱い。

#### ウ 資料活用の技能・表現

1つの資料から事実を正確に読み取る力は少しずつ付いてきている。しかし、複数の資料を比較したり、処理する技能が不十分である。

#### エ 社会的事象についての知識・理解

定期テスト等の結果を見ると、上位層と下位層に分かれている状況にある。基礎的な知識をしっかりと定着させるため、毎時間繰り返して小テストを行っているところである。定着していない生徒の多くは、家庭学習が不足していることから、授業で使用した小テストを用いてのドリル的学習をするように指導している。

### （3）指導観

本単元は、日本の位置・領域に関する内容であるため、単に知識の習得だけの学習になりやすく、生徒の興味関心が薄れる可能性もある。

そこで、本単元の授業テーマを「課題設定に用いる資料と提示の仕方を工夫することにより、生徒の興味関心を高め、地理的事象に関する思考の機会を多く取り入れる授業を行うことで、基礎的な地理用語を理解し定着できるようにする」とし、指導を進めたいと考えた。日本の領域について地図や資料を用いて多面的・多角的な視点から、その特色を理解させることを軸に進める。その中で日本の領域をめぐる問題についてもふれ、我が国の国土について現状を理解し、その歴史的背景や周辺諸国との関係についても興味を持たせたい。興味関心を持たせ理解を深めさせるためには、やはり基礎的な用語の習得が必要不可欠である。基礎用語の繰り返し学習の必要性を生徒自身に理解させ、納得させて指導していきたい。また、お互いの意見・考えを自由にいえる集団を意識させながら授業を進め、このことが社会科に関する興味・関心を高め、その結果として基礎基本の定着にもつながっていくのだ、という姿勢で指導したい。

### 3 単元の目標

- (1) 【社会的事象への関心・意欲・態度】  
日本の国土に対する関心を高め、日本の位置と領域を意欲的に追究し、大まかにとらえようとしている。
- (2) 【社会的な思考・判断】  
日本の位置と領域の特色を、世界的な視野から多面的・多角的に考察している。
- (3) 【資料活用の技能・表現】  
地球儀や地図を使って、世界的視野から日本の位置や領域の特色を適切にとらえている。
- (4) 【社会的事象についての知識・理解】  
世界的な視野から日本の領域の特色と変化を理解し、その知識を略地図に描くことができる。

### 4 単元の指導計画と評価規準（4時間扱い、本時3／4）

時間	学習内容	評価規準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1	日本の位置			同経度・同緯度の国や都市、様々な位置に動かした日本の位置を、地球儀や世界地図を適切に活用して考察している。	日本の位置や周辺の国々や海の名を地図上で身につけている。
2	日本の位置の特色	世界的視野から見ると、日本の位置にはどんな特色があるか、意欲的に追求している。			世界的な視野から見た日本の位置の特色を理解している。
3本時	日本の領域・経済水域		沖ノ鳥島の工事理由を考え、予想をノートにまとめることができる。		日本の領域と経済水域を理解することができる。
4	日本の領域をめぐる問題		領土と領域の意味内容を考え、それらについて日本の世界における地位を考察することができる。		日本の領域をめぐる問題を理解し、その知識を身につけている。

### 5 本時の指導

- (1) 本時の目標  
ア 沖ノ鳥島の工事理由を考え、予想をノートにまとめることができる。  
イ 日本の領域と経済水域を理解することができる。
- (2) 本時の評価の観点と具体的評価基準

評価の観点	具体的評価基準		
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への手立て
社会的な思考・判断	沖ノ鳥島の工事理由を領域・領域経済水域の面から考え、予想をノートにまとめることができる。	沖ノ鳥島の工事理由を考え、予想をノートにまとめることができる。	他の生徒の発表を参考に考え、「～のため」「～だから」という書き方で記入させる。
社会的事象についての知識・理解	日本の領域と経済水域を理解し、用語を正しく書くことができる。(基礎テスト)	日本の領域と経済水域を理解することができる。	基礎確認テストを家庭学習に使用し、繰り返し学習するよう指導する。

	学習過程・学習活動	留意事項・評価	教具
導入 15分	1. 振り返り ・基礎確認テスト42で既習事項の確認。  2. 見通し ・前時に学習した東西南北の島名を地図で全員、男女別、班毎などで復習。 ・沖ノ鳥島に関するクイズ①② ・沖ノ鳥島の写真を見せ再度クイズ ・クイズの解答を行う。  3. 課題把握 ・沖ノ鳥島の工事後の写真を見せ、波から守るために500億円をかけたのはなぜかを考えさせる。  コンクリートのガードとテトラポット300億円、観測所200億円、岩の上のチリふた8億円。学校体育館3～5億円、学校全体10～15億円。これらのことから莫大な費用が使われていることを理解させ、疑問から興味関心を高める。	・基礎的な用語を繰り返し確認する  ・全員で声を出す。 ・①人口は？ A:5,000人 B:500人 C:0人 ・②広さは？ A:グラウンド B:教室 C:教卓 ・写真を見せ、再度考えさせ本時の課題につなげる。 ・満潮時16cm、一辺70cm教卓を示し興味を持たせる	基礎確認テスト42 FC、地図  地図  沖ノ鳥島 PC ①  沖ノ鳥島 PC ②  沖ノ鳥島 PC ③
	<b>学習課題</b> <b>なぜ、沖ノ鳥島に500億円もかけた工事を行ったのか？</b>		
展開 25分	4. 予想① ・学習課題と現在の各自の予想をノートに記入する。 ・予想を発表する。  5. 課題追究 ①白地図を配布し、日本の範囲(国境)はどこまでなのかを予想し、鉛筆で国境を入れる。 ※数人が予想を黒板の白地図に記入  ②領土、領海、領空について板書し、日本の領域を理解する。  6. 予想② 再度、500億円かけた理由を記入し発表する。  7. 課題解決 ・経済水域の説明を聞き、理解する。 ・ノートに経済水域についてまとめる。 ※黒板の白地図を見ながら、各自白地図に青ペンで書く。	・「～ため。～だから」という書き方をさせる。 「金が埋まっているため」 「地下に凄い物があるから」 <b>【思考・判断】</b> ・白地図に東西南北の島を入れ、鉛筆で国境を自由に引かせ、日本の範囲について意識させる。  ・簡単な図で領空、領土、領海について説明する。 白地図に正しい線を入れ、生徒にも白地図に赤で記入させる。 <b>【知識・理解】</b>  ・領域を学んで、理由が変化した生徒に発表させる。 「日本の領土を守る為」等 <b>【思考・判断】</b>	白地図          領土、経済水域の線入り白地図
	<b>経済水域を守るため</b> 沖ノ鳥島が(日本の領土で)あることにより ・約40万k㎡(日本国土38万k㎡)の経済水域を得る。(領土でなければ失う) ・日本は、アメリカや中国と比べて面積が狭い(25分の1)が、経済水域の順位は世界6位。(①アメリカ②フランス③オーストラリア④ロシア⑤カナダ) ・島国日本は漁業国であり、漁業ができる範囲が広がる。 ・ガス、石油等の地下資源と水産資源を得ることができる。		
終末 10分	8. まとめ ・日本の領域、経済水域についてを含んだ基礎確認テストを行う。  9. 次時予告	・導入で使用した基礎確認テストに本時で学習した用語を付け加えたものを行う <b>【知識・理解】</b> ・次時基礎確認テストの予告	基礎確認テスト43  FC

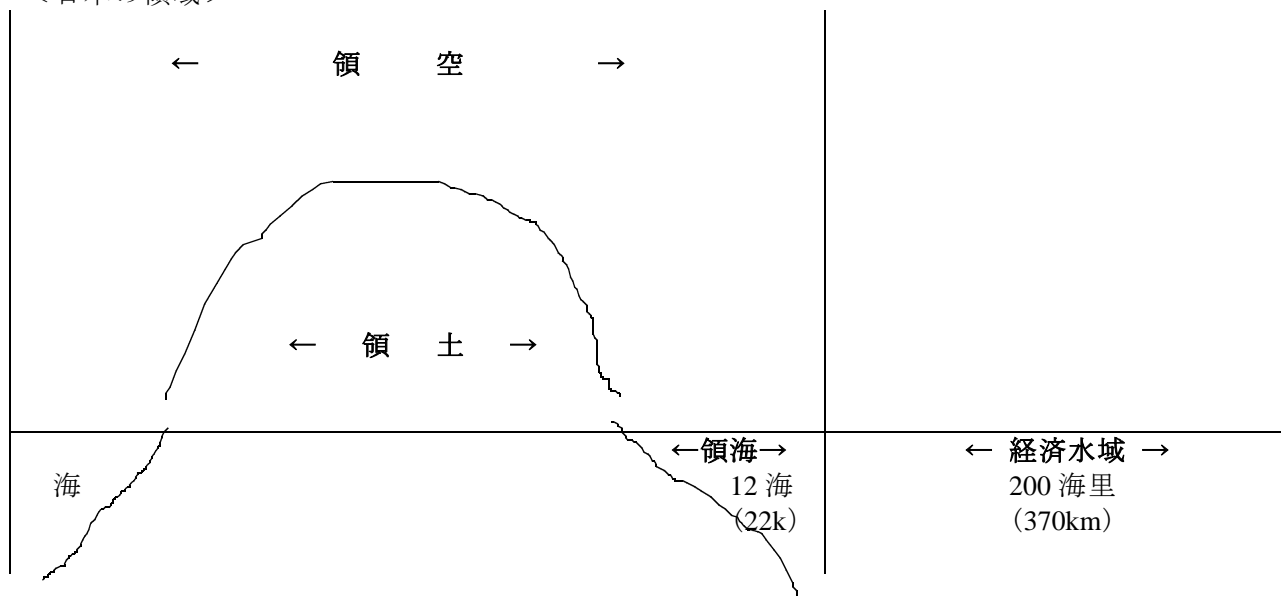
<板書計画>

◎日本の広さを調べよう (P 34~)

なぜ、500億円もかけた工事を行ったのか？

予想①「……のため。……だから。」

<日本の領域>



予想②「……から。」

日本の**経済水域**を守るため。

沿岸から**200海里** (約370km) までの水産資源と鉱山資源を自国のものにできる！

